

10月幼稚園だより

令和6年10月2日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵

体を動かす楽しさ - 「好き」になるために -



(番町幼稚園HP)

園長 中村 千絵

番町幼稚園の子どもたちの運動能力はなぜ高い？

千代田区では、毎年5歳児秋に運動能力の調査をしています。本園でも5歳児の春と秋に走力や跳力などの調査を行い、子どもたちに運動能力が育まれているか、不足している経験はないかについて検証しています。20数名しかいない子ども集団の平均値ですので、年ごとの差もありますし、「子どもの運動能力の向上」そのものについて目指しているわけでもありません。しかし、番町幼稚園の子どもたちの運動能力の平均は、東京都の調査の平均よりも高く、また、春から秋に向かって数値が伸びているというのも事実です。

広い校庭や講堂が使えること、「スポーツタイム」で運動遊びを楽しむ時間を保障していること、様々な要因が考えられると思うのですが、一番に思うのは、本園の子どもたちは傾向として、「体を動かす遊びが好き」であるということが大きいのではないのでしょうか。「好き」であることで、運動することの機会が増え、また、伸び伸びと身体を動かすことにもつながります。

小学校の運動会練習を見て、憧れる

9月には、小学校の運動会の練習をたびたび見ることができました。小学生の体を大きく動かして踊る姿、力いっぱい走る姿を子どもたちは目を丸くして見えます。特に、きょうだい学年(5歳児と5年生など)は自分の知っているお兄さんお姉さんがいるので、関心が高くなります。5歳児うめ組は、5年生のソーラン節を見ながら、真似て踊っていました。「こんな風になりたい」というモデルが身近にいることは「好き」への大きな動機付けになります。



5歳児は、5年生の「ソーラン節」を真似て踊っています。



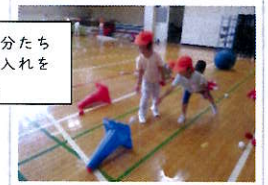
3歳児は、3年生の「エイサー」を夢中になって見えています。

人と競わず、自分のペースで繰り返し楽しむ

かけっこやリレーは、好きな遊びの中で繰り返し楽しむ姿が見られます。友達と競り合いながら走ることは楽しみますが、誰が速いということは話題にならず、繰り返し何度も走ること自体を楽しんでいます。子どもは「上手にできる」から自信を付けるのではなく、繰り返し楽しむ中で、自信を付けていくのです。

多様な動きを経験する

千代田区の公立小学校・幼稚園は、「コーディネーショントレーニング」に取り組んでいます。鬼遊びも、高這い(お尻をあげた這い這いの動き)で行ったり、障害物をたくさん置いて「ジャングル鬼ごっこ」として楽しんだりします。通常の生活では経験できない「飛び降りる」「重いものを持ち上げる」「押す」「掘る」などの動きも、積み木でのごっこ遊びの場の構成や砂場での水路作りなど、豊かな遊びの中で保障されているのです。



4歳児が自分たちで考えた玉入れを楽しみます。



5歳児が巧技台で作った場は様々な動きが出てきます。

暑い夏もやっと終わりを迎え、体を動かすのが心地よい季節となりました。大人が楽しく体を動かしているのを見るのも、子どもたちの「体を動かすのが好き」につながっていきます。19日の「親子スポーツデー」は大人も一緒に体を動かしていただく場面が幾つもあります。ご参加をお待ちしております。



バリオリンピックの影響を受けて、5歳児では卓球ブームが起こりました。